

# 学生確保の見通し等を記載した書類

## 目次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 . . . . .	1
1) 学生の確保の見通し . . . . .	1
2) 学生確保に向けた具体的な取組状況 . . . . .	4
2. 人材需要の動向等社会の要請 . . . . .	5
1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要） . . . . .	5
2) 上記1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの 客観的な根拠 . . . . .	6

# 1. 学生の確保の見通しおよび申請者としての取組状況

## 1) 学生の確保の見通し

### ア 定員充足の見込み

本学は、社会的要請及び建学の精神に基づいて、平成 31（2019）年度に看護学部を開設し看護師・保健師・助産師・養護教諭（一種）の養成を目指している。看護学部においては、学園訓である「和を以って貴しとなす」とする心を基調にして、最先端医療に対応しつつ地域の看護に貢献できる人材の育成を目的にしているが、看護を取り巻く状況の急激な変化は、さらなる高度専門職業人の育成を求めている。加えて、看護学教育の高等教育化に伴う看護系大学及び大学院の増加は、看護系教員・研究者の量的・質的確保が全国的な喫緊の課題となっている。

すなわち、本学における看護学部設置をより発展的に強化し、高度専門職業人を育成するとともに、全国的な課題でもある教育者・研究者の育成を目的に看護学研究科博士前期・後期課程を設置する。

本学看護学研究科博士前期課程では、研究者コースと専門看護師コースの2コースを設置する。研究者コースでは、多様化・複雑化している人々のニーズに対応して理想の看護を描きつつ、研究者や教育者としての基礎的能力を有した人材を育成する。また、専門看護師コースでは、多様化・複雑化している人々のニーズに対応して理想の看護を描きつつ、高度な実践力を有した人材を育成する。入学定員については、近隣の医療機関に勤務する看護職者、近隣の看護学部を卒業する者が進学することを想定し、6人とした。

本学看護学研究科博士後期課程では、看護実践・看護学の発展に寄与できる研究者・教育者を育成する。入学定員については、看護系大学数ならびに大学院数の急増に伴い、看護学教員や研究者数の不足も生じているため、3人とした。

このような看護学研究科を設置する前提として、平成 30 年 11～12 月に大阪府を中心とした病院、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、地方自治体、看護学部を設置する大学等へニーズアセスメント調査を実施した。ニーズアセスメント調査結果は、以下の表の通りであるため、入学定員設定の考え方は妥当であり、入学定員を充足する見込みがと考える。ニーズアセスメント調査結果の詳細については、後述する。

### ○四天王寺大学大学院看護学研究科設置に係るニーズアセスメント調査（入学意向）結果まとめ

	<u>入学定員</u>	<u>合格した場合、入学したい</u>	合格した場合、 状況によって入学したい
博士前期課程	<u>6</u> 人	<u>38</u> 人	47人
博士後期課程	<u>3</u> 人	<u>5</u> 人	2人

## イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

全国の看護系大学院の開設状況を見ると、看護系大学の現状と課題（平成30年6月文部科学省高等教育局医学教育課）の看護系大学院数及び入学定員の推移から平成30年度時点で修士課程は175大学、入学定員2,722人、博士課程は94大学、入学定員625人と示されており、看護系大学院博士後期課程の開設状況は、近年の看護系大学の増加を鑑みると十分であるとは言えない。

### 【資料1】看護系大学の現状と課題 抜粋

また、本学が位置する近畿地区の看護系大学院を近畿圏地図にマッピングしたのを見ると、全体的に北部に集中しており、大阪府下では、国公立の大阪大学、大阪府立大学、大阪市立大学の3大学、私立の藍野大学、大阪医科大学、関西医科大学、摂南大学の4大学、計7大学が設置、うち6大学が北部、中部に集中している。大阪府南部に位置する本学としては、博士前期課程、博士後期課程を設置することは、大阪府南部地域の病院や地域社会に協力することにより、地域の人々の健康増進に貢献でき、本学と関連する社会福祉法人四天王寺福祉事業団の看護ケアの質の向上にも十分貢献できると考える。

### 【資料2】近隣の看護系大学院の設置状況

このような全国の状況や地理的な状況を踏まえ、大阪府南部を中心とした病院、介護老人保健施設、訪問看護ステーション、地方自治体、看護学部を設置する大学等へ本学が設置を予定する大学院看護学研究科博士前期課程、博士後期課程への入学意向についてのニーズアセスメント調査を実施した。調査の実施概要については以下の通りである。

## ○入学意向についてのニーズアセスメント調査概要

調査目的	平成32年4月に設置構想中の四天王寺大学大学院看護学研究科（仮称）の学生募集ニーズを大学外の公正な第三者機関により、対象者へのアンケートを用いて測定すること
調査期間	平成30年11月～12月
調査対象	大阪府南部を中心に、隣接する奈良県・和歌山県を所在地とする、以下の機関・施設、計354箇所の看護職者・看護系教員・看護系学生を対象とした。【 】内はアンケート用紙の配布件数である。 1. 病院 218箇所【2,019件】 2. 介護老人保健施設 20箇所【60件】 3. 特別養護老人ホーム 36箇所【108件】 4. 訪問看護ステーション 21箇所【63件】 5. 看護学部を設置する他大学 14箇所【42件】 6. 地方自治体 44箇所【132件】 7. 社会福祉法人四天王寺福祉事業団 （病院、複数の高齢者福祉施設を運営）【100件】 ※社会福祉法人四天王寺福祉事業団は1箇所カウントとした。

調査方法	調査対象に対して、本研究科の説明が入ったアンケート用紙を送付し、勤務・在籍している病院・施設等を経由して看護師、保健師、助産師、看護教員、看護学生（院生・学部生）へ配布し、各自に回答、返送していただいた。
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回答者の基本情報（居住地、勤務・所属先、保有または取得予定資格、社会人の場合は勤務年数、学歴）</li> <li>□学歴が大学卒までの場合、四天王寺大学大学院「看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程（仮称）」の受験・入学意向</li> <li>□学歴が大学院修了の場合、四天王寺大学大学院「看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程（仮称）」の受験・入学意向</li> <li>□受験を希望しない場合の理由など</li> </ul> 以上、全 15 問で主に選択肢式。一部記述を含む。
有効回答件数	822 件（調査依頼件数 2,524 件、回収率 32.6%）
調査実施・集計・報告書	株式会社高等教育総合研究所

**【資料 3】 四天王寺大学大学院「看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程・博士後期課程（仮称・設置構想中）」設置に係るニーズアセスメント調査 最終報告書（入学意向は pp. 3～20）**

・ **博士前期課程の調査結果について**

前述したニーズアセスメント調査（入学意向）において、回答のあった 822 人のうち、最終学歴が大学、専門学校、短期大学、高等学校看護学科と回答した 794 人に対して、本学看護学研究科看護学専攻博士前期課程に対する受験意志を質問したところ、「受験したい」の回答は 86 人（10.8%）、「受験しない」は 696 人（87.7%）であった。（無回答 12 人（1.5%））

さらに、「受験したい」と回答した 86 人に対して、入学意志を質問した結果、38 人（44.2%）が明確な入学意思を示す「合格した場合、入学したい」と回答しており、入学定員 6 人を 32 人上回った。なお、入学したい理由としては、「臨床の現場で活かせる高度な専門知識の修得と研究力を高めたい」が 19 人（50.0%）と最も多く、次いで「修士の学位を取得し、キャリアアップを図りたい」が 13 人（34.2%）であった。

また、「合格した場合、入学したい」と回答した 38 人に対して、希望コースを質問した結果、25 人（65.8%）が専門看護師コース（高度実践看護師コース）、9 人（23.7%）が研究者コースを希望した。専門看護師コース（高度実践看護師コース）については、設置予定である全領域に希望者がいた。

・ **博士後期課程の調査結果について**

前述したニーズアセスメント調査（入学意向）において、回答のあった 822 人のうち、最終学歴が「大学院修士課程修了以上」と回答した 21 人に対し、本学看護学研究科看護学専攻後期課程に対する受験意志を質問したところ、「受験したい」の回答は 7 人（33.3%）、「受験しない」は 12 人（57.1%）であった。

さらに、「受験したい」と回答した 7 人に対して、入学意志を質問した結果、5 人（71.4%）が明確な入学意思を示す「合格した場合、入学したい」と回答しており、入学定員 3 人を 2 人上回

った。なお、入学したい理由としては、「博士の学位を取得し、キャリアアップを図りたい」が3人（60.0%）と最も多く、次いで「将来、教育者、研究者になりたい」が2人（40.0%）であった。

なお、博士前期課程および博士後期課程を「受験しない」と回答した708人に対し、その理由について回答を求めた結果（複数回答項目）、「大学院に進学する必要性を感じない」が340人（48.0%）と最も多く、次いで「仕事が忙しいため」が306人（43.2%）、「経済的、金銭的理由」が283人（40.0%）であることに対し、「本大学院への魅力を感じない」と回答したものが83人（11.7%）であった。このことから、ニーズアセスメント調査実施時点では本学への受験意欲を示さなかったが、大学院進学を検討しているものが一定数存在することは明らかであり、今後の広報活動を通して更なる志願者確保が可能であると推察される。

## ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金は、学生への経済的負担を配慮し、競合する大阪府下の看護系大学院の私立大学学生納付金の状況も調査し、かつ本学の大学運営上の財務的状況、教育研究環境の充実等を勘案して、近隣の大学院の学費と大きく差がないよう、以下の通りに設定した。

### ○ 学生納付金

（単位：円）

種別	初年度		2年次以降	
	前期	後期	前期	後期
入学金	200,000	—	—	—
授業料	190,000	190,000	190,000	190,000
運営維持費	55,000	55,000	55,000	55,000
施設拡充費	55,000	55,000	55,000	55,000
計（年額）	800,000		600,000	

【資料4】近畿圏の看護系大学院の納付金一覧（私立）

## 2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

看護学研究科の設置にあたり、新たにホームページ上での広報、大学案内等のパンフレットや看護学研究科のリーフレットを作成し、広く周知を図っていく。具体的には、ニーズアセスメント調査を実施した施設や基礎となる看護学部の実地実習施設等の看護職者に対して研究科の周知および募集広報に努める。また、教員のネットワークを活かし、看護系学会および大阪府看護協会等に対しても、パンフレットやリーフレットを配付することで研究科の募集広報を展開する。近隣の施設や看護学部の実習施設、学会、協会などへの募集広報活動は、本学や教員のネットワークが活かされ、様々な看護職者等への絞った効果的な募集広報による学生確保が見込まれる。

その他、看護系雑誌や新聞、ネット等への広告掲載を計画しており、新設の研究科であることを活かし、知名度の向上に繋げる。

なお、PR活動において定められた注意事項を遵守し、志願者に誤解を与えることのない広報活動および認可後の学生募集活動を展開していく。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### 1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

少子超高齢社会等の変化している社会状況において、人々の看護に求めるニーズはますます多様化し複雑化している。加えて、医学・医療技術の進歩は、保健医療福祉現場にある看護職に高度かつ複雑な実践力を要求している。

こうした中で、本学の建学の精神である「理想とする未来像を描き、その実現のための強い意志を鍛える」に基づいて設置する看護学研究科は、学園訓である「和」の精神を大切にしながら、看護の独自性・専門性を追求しつつ、今後の知識基盤社会において実践・研究・教育の場で活躍できる高度専門職業人・研究者・教育者となる人材を育成する。各課程における育成する人材は、次の通りである。

#### 1. 博士前期課程において育成する人材

博士前期課程では、研究者コースと専門看護師コースの2コースを設置する。

##### <研究者コース>

多様化・複雑化している人々のニーズに対応して理想の看護を描きつつ、研究者や教育者としての基礎的能力を有した人材を育成する。

- (1) 変化する社会のニーズに対応した看護の提供を目指した研究ができる基礎的な能力を有する人材の育成
- (2) 看護職の教育的機能を理解し教育力を発揮できる人材の育成

##### <専門看護師コース（精神看護学・老年看護学・災害看護学）>

多様化・複雑化している人々のニーズに対応して理想の看護を描きつつ、高度な実践力を有した人材を育成する。

- (1) 人々の生活や健康を守るために、グローバルな視点を持ち、高い専門知識・技術を身につけた人材の育成
- (2) 実践の場における看護職者や学生の教育、及び多職種との協働ができる人材の育成

#### 2. 博士後期課程において育成する人材

博士後期課程においては、看護実践・看護学の発展に寄与できる次のような研究者・教育者を育成する。

- (1) 人々と社会のニーズに応じた看護実践や社会システムの構築・変革に寄与できる高い研究能力を有した人材の育成
- (2) 学際的・国際的視野に立って、研究・教育に寄与できる人材の育成

2) 上記1) が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

看護学研究科の修了予定者の採用ニーズを調査するため、第三者機関に依頼し、病院や大学等にニーズアセスメント調査を実施した。調査の概要は以下の通りである。

○採用意向についてのニーズアセスメント調査概要

調査目的	平成 32 年 4 月に設置構想中の四天王寺大学大学院看護学研究科（仮称）の人材需要ニーズを大学外の公正な第三者機関により、対象者へのアンケートを用いて測定すること
調査期間	平成 30 年 11 月中旬～12 月中旬
調査対象	大阪府南部を中心に、隣接する奈良県・和歌山県を所在地とする、以下の機関・施設、計 354 箇所の人事採用担当者、看護部長を対象とした。【 】内はアンケート用紙の配布件数である。 1. 病院 218 箇所【218 件】 2. 介護老人保健施設 20 箇所【20 件】 3. 特別養護老人ホーム 36 箇所【36 件】 4. 訪問看護ステーション 21 箇所【21 件】 5. 看護学部を設置する他大学 14 箇所【14 件】 6. 地方自治体 44 箇所【44 件】 7. 社会福祉法人四天王寺福祉事業団 （病院、複数の高齢者福祉施設を運営）【1 件】 ※社会福祉法人四天王寺福祉事業団は 1 箇所カウントとした。
調査方法	調査対象に対して、本研究科の説明が入ったアンケート用紙を送付し、勤務・在籍している大学・病院等を経由して採用担当者へ配布し、各自に回答、返送していただいた。
調査内容	□回答機関・施設の基本情報（所在地、種類、勤務する看護職者・看護系教員の人数） □大学院修士課程（博士前期課程）・博士課程（博士後期課程）修了の看護職者・看護系教員の勤務状況（勤務の有無、勤務人数など） □四天王寺大学大学院「看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程（仮称）」を修了した人材の必要性、採用意向、進学推奨の有無 □四天王寺大学大学院「看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程（仮称）」を修了した人材の必要性、採用意向、進学推奨の有無 以上、全 11 問で主に選択肢式。一部記述を含む。
有効回答件数	90 件（調査依頼件数 354 件、回収率 25.4%）
調査実施・集計・報告書	株式会社高等教育総合研究所

【資料 3】四天王寺大学大学院「看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程・博士後期課程（仮称・設置構想中）」設置に係るニーズアセスメント調査・最終報告書（採用意向は pp. 21～32）

・博士前期課程の調査結果について

前述したニーズアセスメント調査（採用意向）において回答のあった90箇所のうち、本学博士前期課程を修了した人材の採用意向について、「採用したい」が29箇所（32.2%）あり、29箇所が採用する人数を具体的に示し合計は57人と入学定員6人を上回った。なお、採用意向を示しながら人数提示がなかった2箇所においては少なくとも1人ずつの採用が見込まれると想定すると合計59人の採用が見込まれる。

・博士後期課程の調査結果について

前述したニーズアセスメント調査（採用意向）において回答のあった90箇所のうち、本学博士後期課程を修了した人材の採用意向について、「採用したい」が20箇所（22.2%）あり、20箇所が採用する人数を具体的に示し合計は34人と入学定員3人を上回った。なお、採用意向を示しながら人数提示がなかった2箇所においては少なくとも1人ずつの採用が見込まれると想定すると合計36人の採用が見込まれる。

上記のニーズアセスメント調査結果を踏まえ、看護職者、看護系教員が勤務する現場との連携を高め、本学看護学研究科の特色を継続的に訴えていくことで、高度な看護実践者や研究者・教育者として中長期的に安定な人材需要先が確保できると推察する。

以上